

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 17 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870800145		
法人名	社会福祉法人 愛美会		
事業所名	グループホーム 虹の里		
所在地	愛媛県四国中央市上分町乙8番地73 (電話) 0896-58-0012		
管理者	森田 春美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 7 月 11 日	評価確定日	平成 20 年 9 月 22 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 6 月 13 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 人, 常勤換算 7.1 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,900 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	140 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 込み 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 6 月 13 日事業所記入)

利用者人数	8 名	男性 名	女性 8 名
要介護 1	名	要介護 2	名
要介護 3	5 名	要介護 4	2 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 87.8 歳	最低 82 歳	最高 95 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から山間に入る道を5分程度走った、ケアハウスとの複合施設の2階にある1ユニットのホームである。特別養護老人ホームと老人保健施設が近接しており、広い庭からは市内を臨むことができる。母体法人の理事長が「地域を創る」という構想で大型複合施設として、地域との交流には力を注いでおり、歴史を刻んでいる。ホームは、近接施設の多機能を利用者のサービスの質向上に活用している。1階の広いロビーは眺めがよく、天候に関係なく散歩が楽しめることは、複合施設ならではの利点である。利用者に対してゆったりとした生活を提供しており長期の利用者が多く、職員とは深い信頼関係が結ばれている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

積極的な外出支援や馴染みながらのサービス利用などへの新たな取り組みを期待されており、早々に「改善計画書」を作成し、職員全員で取り組みを行っている。また、運営推進会議の活用も活発化しており、評価での課題を利用者へのサービス向上と捉え、積極的に改善に努めている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

開設後10年を迎えているホームだけに、自己評価の重要性を十分に認識しており、職員全員で取り組んでいる。評価を一年間の業務の振り返りとして位置づけており、項目の意味合いを多方面から読み込むことに努めている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議は、防災訓練や、新しく始めた認知症対応型通所介護の説明など大きな議題もあるが、利用者の生活の紹介なども行い、多岐に亘る内容となっている。参加者は法人関係者をはじめ、利用者や家族、市関係者、ふれあい相談員など、地域を意識したメンバーとなっている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

1ユニットのホームの特徴として、管理者や職員と家族との関わりが密なことがある。管理者には、家族の協力を得るには先ず報告という認識があり、家族は安心できる。また、大きな施設の利点である法人全体で家族等の話を拾い上げる取り組みがあり、施設長などが積極的に関わり、ホームの運営に反映させるようにしている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

大型施設の利点である他施設の利用者との近所づきあいが期待できるホームである。現在は法人のイベント時に利用者同士で交流する程度であるが、普段着での付き合いが深まることで、地域住民としての利用者のふれあいが日常生活を豊かにし、双方に活気が出てくることが期待される。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 虹の里

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名 森田 春美

評価完了日 平成 20 年 6 月 13 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域とのふれあいを大切に、自立支援を心がけた理念を作っている。 (外部評価) 大きな複合施設の中にある特性を生かした「ここに新たな地域を創る」という理事長の基本構想をベースに、地域住民だけでなく、特別養護老人ホームや老人保健施設、ケアハウスの利用者との地域づくりを意識した理念が作られている。	※	理念に基づいた年間目標なども掲げ、実現に向けて取り組んでゆきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ホーム内の分かり易い所に理念を掲示しており、朝礼で復唱し共に理念の実現に向けて取り組んでいる。 (外部評価) ホームの理念を朝礼の際に復唱することで、その重要性を再認識するような取り組みがなされている。理念復唱は意識付けのためにも必要なこととして日常業務に組み込み、常に理念と向き合っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族へ近況報告をし、ホーム便りの発行、サロンへの参加により地域の方にその意義を理解してもらえるよう取り組んでいる。 又、法人の行事等においても、ふれあいの場を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 周りに民家がないという立地条件の中で、併設のケアハウス利用者や近くの他のグループホームの方々と付き合いをしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地区のサロンや老人会にも参加しており、法人全体で行う七夕祭り・盆踊りに参加。 また、市主催の紙祭りのフリーマーケットへ出店をし地域の方々と交流をしている。 (外部評価) 管理者が高齢者のサロンや老人会等で福祉講座を行う際に利用者と一緒に出向き、交流の場を設定している。また、地域のイベントにもホームとして出店するなどの活動も行っている。しかし、身近な地域であるケアハウスや老人保健施設の利用者と近所づきあいができているとは言えない。	※	大型施設の利点を活かして利用者同士の近所づきあいを期待したい。現状では利用者同士も法人のイベント時での交流にとどまっているが、近接施設に生活する利用者も近隣住民として捉え、普段着での付き合いが深まることで、双方に活気ができることも期待できるので、地域住民としての利用者同士のふれあいの支援を望む。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 各地のサロンや老人会へ利用者と参加し、介護保険制度および認知症ケアについての説明等を行っている。		新たに、共用型認知症対応型通所介護をスタートさせ、地域へ微力ながら貢献している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価の意義については、全職員で話し合い、全員で取り組み、質の向上に努めている。 (外部評価) 評価は3回目であり、管理者の交代や職員の入れ替わりが少ないため、評価の意義はよく理解されている。また、評価の回数を重ねる毎に、自らのケアを振り返る重要な機会であることの認識が深まっており、改善策の具体化も高まっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 日常生活や行事内容の報告・説明をし、意見交換を行う事でサービス向上に努めている。 また、ホーム内にて開催し利用者も参加している。 (外部評価) 手探りで行っていた運営推進会議も、回を重ねるごとに具体化していることが議事録からも見てとれる。参加者は法人関係者をはじめ、利用者や家族、市関係者、ふれあい相談員など多岐に渡り、利用者のサービスに直結する話し合いが、肩の力を抜いて行われていることが分かる。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 月に1度、市から委託を受けた介護相談員の訪問を受け利用者の声を聞いてもらい、サービスの向上に活かしている。 (外部評価) 管理者が地域のサロンや老人会等に関わるために、民生委員や地域包括支援センター職員との打ち合わせを行っており、その機会を利用してホームの運営などについての相談が行われている。しかし、時間的にはサービスの質向上につながる深い話は難しく、回数も多いとは言えない。	※	市と連携し、社会資源を活用しながら利用者へのサービスの質を向上させることはQOLの視点からも重要であるが、そのためには準備が必要であり、時間を要する。これらは管理者の業務と思われるため、管理者には外部と関わる時間の確保を望みたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 県主催の研修会へ参加し、また、勉強会も行っているが現在のところ活用するような機会がない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待法については、研修会等に参加し勉強している。 日々の業務の中では、職員同士が意識をし合う事により虐待防止を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には契約書や重要事項説明書により説明し退去時には、その理由を説明し、合わせて今後の対応を家族と十分協議している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月1回の介護相談員の来訪時に、利用者の思いを聞いていただき、運営に活かしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時を利用し、また、遠方の方には電話で報告を行い家族との信頼関係を築いている。 金銭管理報告書・虹便りを3ヶ月に1度家ご家族へ送付している。 (外部評価) 1ユニットと小規模であることから、管理者や職員は家族との関わりが密である。また、家族の協力を得るには細かなことまで報告することが重要であるとの認識があり、家族が安心できる報告がなされている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時を利用し、また、苦情処理箱を設置しており意見を述べやすい人間関係をつくり運営に反映させている。 (外部評価) 管理者の傾聴する姿勢には、家族等が意見や不満などを切りだし易い雰囲気がある。また、大きな施設の利点である法人全体で家族等の話を拾い上げる取り組みがあり、施設長などが積極的に関わり、ホームの運営に反映させるようにしている。		遠方などの理由で来訪が数少ない家族には近況報告に並行して意見等を頂けるよう工夫している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会を利用し、意見や提案を聞いている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 十分な余裕を持った人員配置は出来ていないが、他部署の協力を得て柔軟な対応に努めている。		行事等において、職員の参加が必要な時には勤務の調整は勿論のこと休みの職員も自主参加にて協力できる体制にある。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 移動や離職は最小限にとどめ、その前後には利用者・家族に説明し一日も早く馴染みの関係が作れるよう努めている。 (外部評価) 運営法人や管理者は、職員が働きやすい環境となるような配慮をしており、職員の異動や離職が少なく、利用者との馴染みの関係が築かれゆったりとした時間が流れているホームである。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内外の研修に全員が参加出来るよう計画を立てて研修内容は職員会で報告している。 (外部評価) 職員に対して、研修等で質を高める取り組みがなされており、法人内でも組織的に勉強会を開催している。離職者も少なく職員のスキルも安定しているが、5年、10年先の職員の状況を考えると、若い世代などへの理念や技術の継承が急務と考えられる。		シニア世代の職員が多い傾向にある。質の高いケアをしているホームだけに、若い世代の職員の育成に組織的に関わっていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会への参加 又、関係事業所との交流をすることによりサービスの質の向上に取り組んでいる。	※	先日の運営推進会議にて市への要望事項としてグループホーム連絡会（11カ所の施設間で）の立ち上げをお願いしている。
			(外部評価) 同法人の施設やケアハウスなどが隣接しているため、法人内の職員同士の交流は勉強会や研修などで日常的にあり、利用者へのサービスについては多方面からの意見を求めることができる。しかし、法人外の関係機関等との交流、特にグループホームとの交流機会はあまりない。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 構造上、利用者と離れ休憩できる場所はないが昼食後ゆっくり休憩をとっている。 また、厚生旅行・忘年会・職員親睦会などに参加して気分をリフレッシュする機会を設けている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 多様な研修に参加できるバックアップがあり、各自が向上心をもって働ける体制にある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談では、本人・家族より生活状況を聞き、入居前の生活状況を把握するため家庭へ訪問するなど本人の思いや不安を十分聞くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族が困っている事を十分傾聴し、安心して利用しているよう努めている。利用後も状況報告において、利用者と職員の関わりを説明し家族との信頼関係を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族がどのような支援を求めているかを見極め対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家庭を訪問し、家族(利用者)と話を出来る限り多くの情報を集め利用者が安心してサービスを利用できるよう努めている。 (外部評価) 運営法人が地域に根差した活動を行っており、歴史がある。地域住民は運営法人に馴染みがあり、その上でホームが運営されているため、安心した環境の提供が可能となっている。また、利用者に安心感を持ってもらうためには、人の関わりが重要と考えており、職員が笑顔でゆっくりと関わる工夫にも余念がない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は、利用者が人生の先輩として学ぶことも多くお互いに支えあう関係をつくっている。 (外部評価) 職員はホームの中に自分の精神的な居場所を感じており、それは利用者に支えてもらっているためと実感している。また、心地よい居場所を利用者とともにすることが、支え合う関係であると理解している。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時は、現在の状況を報告し、協力して欲しい事はお願ひし、共に利用者を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の家族への思い、また、家族の本人への思いを考慮し、面会時には楽しい一時が過ごせるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地元のサロン等に、出来る限り参加し馴染みの関係が途切れないよう努めている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を十分把握し、利用者同士が楽しく過ごせるよう橋渡しをし、また、フロア内の環境づくりにも気をつけている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 心身状態の変化により他の施設に入居された時は可能な限り面会に行き、様子も伺っている。 又、職員に限らず利用者も訪問できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、他の利用者や職員との会話の中から利用者の思いを把握できるよう努めている。 また、困難な人は、今までの生活歴を考慮し職員間で話し合っている。 (外部評価) 管理者や職員は利用者との生活が長く、利用者個々の希望や意向が言葉ではなくても伝わる関係があるため、認知症が進んでいる利用者に対しても、本人本位の生活を支援している。しかし、今後新しい職員が勤務した場合には、言葉で表現できない利用者の理解を進める手段が整っているとは言えない。	※	利用者の希望と職員の接し方にずれ違いが生じないよう、また、小さなサインも見落とさないよう努めてゆきたい。 ※ 利用者情報はセンター方式のアセスメントシートで整理しているが、記載事項が多いとは言えないため、利用者の情報を把握した際に誰でも書き込める様式の活用方法についての検討を望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にこれまでの生活歴を聞き、また、面会時にも少しづつ細かい部分を聞き、把握できるよう努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、一人一人が持っている能力を把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の思いやどのように暮らしたいかを尋ね、また、家族とも話し合い月1回のケース会においても課題をあげ介護計画に反映させている。 (外部評価) 利用者には担当職員が決まっているが、職員全員で介護計画の作成に取り組んでいる。また、日常的な健康管理を行っている看護師にも意見を求め、「ゆっくり、楽しく」との理念に沿って、生活重視の介護計画作成を心がけている		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 6ヶ月に一度の見直し、また、状態が変わればその都度見直しを行っている。 (外部評価) 定期的見直しは半年としているが、利用者の状況に応じて随時見直ししている。見直しのタイミングは、月一回のケア会議で意見を出し合うが、独自の評価表で一か月の自己評価を行うことで客観的な視点も加味されており、利用者の状況を見逃さない仕組みがある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 処遇記録に詳しく記録し、口頭においても申し送りを行い、情報を共有し見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族が受診に対応できない時は、職員が対応 また、外出・買い物等にも家族・利用者の要望に応じ可能な限り対応している。 (外部評価) 総合複合施設の中にあるホームであるから、他施設の機能もフルに活用しながら利用者や家族の状況に対応しており、大型施設の長所をうまく活用している。また、ホームでも独自の通所介護を始めており、ホームの利用者にとっても新たな刺激となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 併設施設の支援を受けている。 また、ボランティア・教育機関とも協働し支援を行っている。	※	これからも運営推進会議を通じて、更なる地域資源との協働を図ってゆきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要があれば支援するが、現在のところ他のサービスの利用はない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターの協働はないが、運営推進会議の参加をお願いしグループホームを理解してもらえよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 受診の際には、家族の要望に沿えるよう努めている。 また、家族が付き添えない時には職員が付き添い結果を報告している。 (外部評価) 運営者の経営する協力医療機関が地域医療の核になっているため、多くの利用者は協力医療機関がかかりつけ医となっているが、ホームとの連携もスムーズなため入居を期に変更した方もおり、現在は全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。医療機関とホームは定期的に情報のやり取りを行っており、健康面を含め医療的な安心感を利用者や家族に提供できている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医は、認知症をよく理解しており指示や助言をもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホームの看護師による毎日のバイタルチェックにより健康状態を把握し、異常のある時は相談し医療機関等へ受診している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 早期退院に向けて積極的に医療機関や家族と話し合いの機会を持つように努めている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合の看取りの方針と同意書を作成している。 (外部評価) 近接している老人保健施設や特別養護老人ホームと役割を明確にしておき、重度化した場合や終末期には利用者の状況に応じて適切な施設を活用するよう取り決めている。ホームのすべき範囲や可能なサービス提供状態を家族と十分に話し合っており、介護のプロとしての立場を明確にしている。	※	利用者および家族の意向を大切にし、出来るだけ早い段階からこれらのあり方について話し合い職員も含め方針を共有してゆきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 看護師・かかりつけ医と共に、チームとして支援し職員間でも今後の変化に十分気をつけるように話し合っている。	※	医療面の知識を広め、終末期ケアにおいてもしっかりと研修・勉強会などを重ねてゆきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 利用者が好む事、好まない事などを細かく情報交換することにより、ダメージを少なくしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 人生の先輩である事を認識し、言葉かけに注意すると共にプライバシーにも十分気をつけている。 (外部評価) 利用者への声かけは、耳元で話しかける、スキンシップを取りながら、など、利用者それぞれが心地よい状態で話ができるような工夫がある。会話の様子から、家族同士が会話しているような気安さはあるが、職員は利用者に対して目上の人という敬意を払っている様子がうかがえる。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 判断能力のある人には、希望等を聞きそうでない人にはその人の能力に応じて説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活は、利用者の個々のペースで過ぎて頂き自己決定できない利用者には状況に応じて支援・行事などへの参加も自由としている。 (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者にはゆっくりとした時間を過ごしてもらうということが優先されている。管理者や職員は利用者の思いを把握することを重視しており、そっとしておくべきか、積極的に関わるかなど、利用者主体の対応に心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 2ヵ月に一度理容師さんに来ていただき、個々の希望に添ったカットをしてもらっている。 また、希望があれば馴染みの美容室へ出掛けている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と共に調理、盛り付け、片付け等をし、利用者の能力に応じてお手伝いしてもらい、楽しく食事出来るような雰囲気づくりを大切にしている。 (外部評価) 季節の食材の話などが話題にのぼったり、下ごしらえをした利用者になげらいの言葉をかけるなど、日常的に和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいることがうかがえる。職員と一緒に準備や後片付けを行うことが難しい利用者が多くなってきているが、食器を重ねるなどのできる範囲のことを楽しくできるような支援に努めている。		介助が必要な場合は、声掛けを多くし楽しく美味しく食事出来るよう心掛けている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 一人一人の状況に合わせた支援は難しく、全員が同じ飲み物、おやつであるが皆さん大変喜ばれている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表にて確認し、声掛け・誘導を行い失敗のないように気をつけている。 また、普段の行動パターンにも気をつけている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入浴の希望を聞き、午後から時間を気にせず入浴していただいている。 (外部評価) 入浴の時間帯は午後からとなっているが、その中で順番などを利用者の希望に添うようにしている。入浴はリラクセスする場であることから、余り決まりごとを設けないようにしており、心地よいサービスが提供できていることが感じられる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動において、疲れのみえる方には休憩の声掛けをし、また、一人一人の就寝時間を把握し安心して休めるよう声掛けをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 個々の能力に応じた役割分担を決め、生活にハリや充実感がもてるよう支援している。 (外部評価) 管理者や職員は利用者との生活が長く、利用者それぞれの生活歴を背景とする好みなどの把握は十分できている。その上で認知症の状態を見据えて楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。支援の基本を待つこととしているために、職員は優しいまなざしでゆっくりと利用者寄り添っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には預かりとしているが、買い物に出る時には自分で管理してもらい買い物をしてもらう。 但し、利用者の認知症の程度にもよるが常時の本人管理は難しい。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) ゴミ捨てや六地藏参り、また、天気の良い日には散歩に出かけている。 (外部評価) 山の中腹にあるため、日常的に買い物等で外出することは難しいが、大型施設であるため、広い庭に出るだけでも外出の気分が楽しめる。庭からは市内が見渡せ、観光に来た気分も味わえる。また、広いロビー等で天候に関係なく散歩が楽しめるのも大型施設ならではの利点である。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 旅行や動物園等の遠方への外出支援は行えていないがお墓参り等は家族へお願いし出掛けられるよう支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は、状況報告時に利用者とも話しが出来るよう配慮している。 また、暑中見舞いや年賀状を出し季節に応じた挨拶をしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問客を笑顔で迎え、又、さりげなくお茶を出し挨拶した後はゆっくりお話をしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 転倒の危険性のある人は、常に見守り・声掛け・何をしようとしているのか見極め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者が出て行こうとされた時は、さりげなく声をかけ一緒に行動し見守りをしている。 できる限り自由に過してもらうようにしている。 (外部評価) 施設玄関の鍵は、夜間の防犯のため以外は施錠されていない。ホームの玄関ドアは自動ドアのスイッチが切っており、手動で開閉できる。しかし、共用スペースからの見守りで対応しているのも、不意の外出にも迅速な対応が可能となっている。1階の事務職員等も見守る体制があり、安心できる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中、利用者の方はフロアで過ごす事が多い為、全員の様子を伺う事ができる。 夜間は2時間毎の見守りと随時の対応により安全確認を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 管理しなければならないものは何かを検討し、一人一人の状態を把握し使用時の見守り等を行っている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 日々のヒヤリハットを記録し、職員間で今後の対応について話し合っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 夜間帯の対応については、マニュアルを作成しているが定期的な訓練は行われていない。	※	今後の運営推進会議の議題にも取り上げ、救急救命法・初期対応の知識・技術を学び事故発生に備えておきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 火災時の自動通報装置あり。併設施設との火災訓練は、年2回実施。消防署の方をお招きして講習も実施済み。運営推進会議において啓発運動も行っている。 (外部評価) 災害対策や防災については法人全体で重要課題として対策が講じられており、安心できる。また、運営推進会議でも議題として取り上げ、防災について地域と一緒に考える時間を作っている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に利用者のリスクをきちんと説明し、ホームの取り組みの方針を示している。次第にリスクの大きくなる利用者については、その都度ご家族へ説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 看護師によるバイタルチェックをし、利用者一人一人の状態を把握している。少しでも異変がある時は全員で様子観察、状況によっては受診している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は一人一人の薬の内容を理解しており薬を手渡し服用できているか確認している。また、症状が改善されなければ再度医師に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事の献立にはいつも野菜を多く取り入れたり水分摂取にも気をつけている。 また、掃除や体操で身体を動かす機会を適度に設けている。		自然排便がない利用者にはセンナ茶や便秘薬などその人にあった対応を心掛けている。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後は、歯磨きの見守り・確認を行い、週1回の義歯消毒を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日1600kcalカロリーの食事・1.5リットルの水分を基本とし、利用者一人一人の摂取量をチェックシートに記入し確認している。 (外部評価) 運営法人の栄養士の管理のもと栄養バランスの良い食事が提供されている。また、食べることは楽しみたいという管理者は、食材やメニューにも季節感を取り入れるなど配慮している。利用者の水分確保には汁ものやお茶などいろいろな工夫を凝らしながら適切に支援している。		管理栄養士の立てた献立によりバランスのとれた食事を提供。利用者の状態・好みに応じた支援をしている。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 日頃から衣類や身体の清潔に努め、予防に心掛けている。 また、インフルエンザの予防接種は本人・家族の意向もあるが出来る限り受けるよう勧めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 普段の食材は、合同調理室で管理されている。 台所は毎日夜勤帯で清掃し、まな板はその都度消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 構造上、ケアハウスの建物内にある為ホームとしての玄関はないが入り口に花を置くなどして暖かい雰囲気作りに努めている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 四季折々の花を飾り、また、利用者と共に作った作品やお雛様・五月人形を飾り季節感を取り入れている。 (外部評価) 共用空間は、家具の配置でダイニングとリビングに区切り、生活のシーンでうまく使い分けている。利用者にゆっくりしてもらいたとの配慮で広いリビングは面積的に余裕があり、大きいクマのぬいぐるみも置かれているが、違和感なくマスコットの的に鎮座している姿が心地よい空間を演出している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 皆で過ごせる場所・一人になったり・仲のいい利用者と一緒に過ごせる場所をと、数箇所に椅子を配置している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と相談し、家で使い慣れた物や日用品等を持って来てもらっている。 (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気や温度については、職員が常に意識し利用者の状況を見ながら快適な環境をつくるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 転倒や事故に繋がる要因はないか常に意識し安全な環境づくりに努めている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 自分の部屋が分からない利用者には、大き目の表札を掛け、トイレにも昔風の呼び名で目の高さに掲示し分かりやすくしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) グラウンドを利用し様々な行事や普段の散歩を行っている。広いベランダもあるが、出入口の段差が大きく危険なため使用していない。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	日々の生活の中で、今何がしたいのか・どう思っているのか等を機会があるごとに会話の中から読み取っている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	毎日3時のお茶の時間には、ゆっくりと一緒に過ごすようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	思いがこうじて、つつい急かしたり命令口調になる事もある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の声掛けでお手伝いをしたり、共に行動する事で不安や戸惑いから開放され生き生きされているように思う。利用者の中には、そっとしておいて欲しいというような表情をされる人もいる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望される方は少なく、出掛けたいと意思表示される方には可能な限り対応している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	看護師の健康チェックや体調不良の際の早期受診により、利用者の健康管理に努めている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の要望にはできる限り対応し納得されるよう支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時に意見交換し、家族との信頼関係を築いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	民家かは少し離れている為、地域の方は訪れ難いようである。利用者の知人やふれあい相談員さんが定期的に訪問してくれている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会を通じて、老人会より依頼を受け、座談会を開く等の繋がりが深まった。
98	職員は、活き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日、明るく笑顔で利用者に接している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生活に不便もなく快適だと言われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族からあまり不満は聞かれない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・ 食事前の石鹸での手洗い・外出後の手洗い・毎食後の歯磨きの徹底。
- ・ 清潔でトイレに悪臭がない。
- ・ 毎日の入浴を実施。
- ・ カロリー計算された食事を提供。
- ・ 月1回のボランティアによるお茶会を通じて併施設や近隣施設との交流を図っている。
- ・ 共用型認知症対応型通所介護ではグループホームならではの細かな対応と柔軟なサービスを提供。